

ご挨拶



皆さまには「Valqua Technology News」をご愛読賜り、厚く御礼申し上げます。

近年、生成AI・先端半導体分野を核とした技術開発が一層加速し、個々の企業や製品間の競争から、複数の企業や技術が連携する競争へと拡大しています。これにより、AIを基盤にデータ・ソフトウェア・製品／サービスを含めたシステム全体を構築し、その最適化で価値を創出する時代への移行が進んでいます。一方、米中対立や中東情勢などに起因するサプライチェーンの分断、資源・エネルギー制約が益々顕在化し、事業環境の不透明感は常態化してきています。これらの外部環境下では、従来の強みだけでは競争優位性の維持が困難な一方で、新たな価値創出の機会でもあり、技術開発と価値創造のあり方の重要性が益々実感出来る状況になっています。

現在、当社は「THE VALQUA WAY」のもと、「Well Being経営」を基盤に、中期経営計画「NF2026」の最終年度を迎えております。国内外生産拠点の安定供給体制の整備・増強とともに、コア技術であるシールエンジニアリング技術の進化による製品・サービスの高機能化と適用範囲の拡張に注力しております。先端産業領域においては、フルオロエラストマー（FKM）やパーフロロエラストマー（FFKM）、PTFEといった高機能製品群の更なる機能向上を図り、また機器・プラント分野に対しては、顧客周辺の様々なデータを活用し、状態監視・最適運用を核としたデジタルソリューションの提供を目指し、顧客価値の最大化に取り組んでいます。これらは、2027年の創業100周年、次の100年に向けた事業成長を切り拓く取り組みとなります。

本号では当社の最新技術成果や現場適用を重視したソリューション商品を紹介いたします。技術論文として、環境負荷が小さいグリーン冷媒に対応すべく、顧客仕様に応じた当社合成ゴムの各種評価「新冷媒に対応するエラストマー材料について」を報告、材料の低溶出・低膨潤性、及び耐熱性の評価結果を詳述します。製品紹介として、白色系耐酸FKM「TOUGHUORO® AWシリーズ」では、旧ポリマーの廃番に伴う配合改良とそれによる耐久性・信頼性向上の技術的背景を解説します。また、デジタルソリューションの一つとして、フランジ面診断サービス「フランジカルテ」の機能拡張について、クラウドでの一括管理、施工履歴比較、面間算出などの新機能について事例を交えて紹介し、プラント保全への応用可能性を示します。最後に、半導体製造装置向け高機能FKMについて、耐ラジカル性や低固着性といった材料特性の強化点と現場でのメリットを説明します。更に、PTFE大型素材や加工品、ライニングボールバルブの生産を担う新拠点「バルカーベトナム樹脂工場」の技術・生産体制を紹介します。各記事が皆さまの技術検討や現場改善の一助となれば幸いです。

今後も当社は、これまで培ってきたシールエンジニアリング技術に、AIや機械学習など新たなテクノロジーを取り込み、製品・サービスの高度化とデジタル化を追求し、信頼性と持続可能性を兼ね備えた価値創出に邁進してまいります。今後とも Valqua Technology News をご愛読賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

技術総合研究所長 能勢 正章